

科目名	社会科学講義基礎(政治)						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	60時間/120時間	担当者	村田 祐貴子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員1次試験において出題される政治分野の知識を授業内で配布されるオリジナルレジュメを用いて習得する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ガイダンス					
	2	政治とは			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	3	日本国憲法① 大日本帝国憲法と日本国憲法			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	4	日本国憲法② 基本的人権各論			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	5	日本国憲法③ 統治機構			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	6	地方自治			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	7	選挙制度			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	8	行政の拡大と民主化			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	9	三権分立			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	10	戦後の日本			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	11	国際社会と国際法			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	12	国際連合と国際協力			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	13	国際問題			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	14						
15							
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。 授業は上記の13単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	社会科学講義基礎(経済)						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	30時間/120時間	担当者	小川 文夫		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員1次試験において出題される経済分野の知識を授業内で配布されるオリジナルレジュメを用いて習得する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	市場と価格			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	2	企業のしくみ			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	3	景気と物価			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	4	金融政策			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	5	財政政策			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	6	貿易			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	7	国際経済			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	8	国民所得と経済成長			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	9	現代日本経済			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	10	経済学史			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。 授業は上記の10単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	社会科学講義基礎(社会時事)						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	30時間/120時間	担当者	村田 祐貴子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級教養科1年						
授業概要	公務員1次試験において出題される社会・時事分野の知識を授業内で配布されるオリジナルレジュメを用いて習得する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	労働事情① 労働三法			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	2	労働事情② 労働問題			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	3	社会保障① 社会保障制度			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	4	社会保障② 少子化対策・公的扶助・障害者対策			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	5	環境問題① 環境に関する条約			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	6	環境問題② エネルギー問題			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	7	環境問題③ 生態系			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	8	世界遺産・ノーベル賞			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	9	各種政策① 観光			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	10	各種政策② 消費者問題			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	11	世界経済			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	12	日本経済			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。 授業は上記の12単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	人文科学講義基礎(日本史)						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	30時間/75時間	担当者	小川 文夫		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員1次試験において出題される日本史分野の知識を授業内で配布されるオリジナルレジュメを用いて習得する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	原始時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	2	大和時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	3	奈良時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	4	平安時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	5	鎌倉時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	6	室町時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	7	安土桃山時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	8	江戸時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	9	明治時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	10	大正時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	11	昭和時代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。 授業は上記の11単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	人文科学講義基礎(世界史)						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	30時間/75時間	担当者	小川 文夫		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員1次試験において出題される世界史分野の知識を授業内で配布されるオリジナルレジュメを用いて習得する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	古代文明			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	2	中世① ヨーロッパ、キリスト教、十字軍			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	3	中世② ルネサンス、大航海時代、宗教改革			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	4	近世			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	5	近代① 産業革命			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	6	近代② 国民国家の形成			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	7	近代③ 帝国主義			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	8	近現代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	9	中国史			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	10	現代			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	11	現代・アジア史			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	12	イスラム史			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	13	各国地史			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	14						
15							
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。 授業は上記の13単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	人文科学講義基礎(地理)						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	15時間/75時間	担当者	小川 文夫		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員1次試験において出題される地理分野の知識を授業内で配布されるオリジナルレジュメを用いて習得する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	地形			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	2	気候			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	3	農業			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	4	林業・水産業			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	5	資源			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	6	工業			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	7	集落・都市			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	8	人種・民族・宗教			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	9	国家・国家群			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	10	図法			知識演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。 授業は上記の10単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	自然科学講義基礎						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	上村一則、大村彩		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	生物について、公務員採用試験で出題されやすい単元を、オリジナルテキストと授業内で配布されるオリジナルレジュメを使用して学習し、その基本的内容を理解する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を理解する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					生物分野の基本的知識を身に付ける。	
		○				公務員試験問題を実践的な解法で解答できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ガイダンス					
	2	細胞・浸透圧			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	3	細胞分裂・組織			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	4	生殖・発生			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	5	遺伝1 メンデルの法則			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	6	遺伝2 複対立遺伝子など			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	7	酵素・窒素同化			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	8	炭酸同化(光合成)			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	9	呼吸・発酵			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	10	消化・代謝			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	11	恒常性			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	12	感覚器と神経系			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	13	植物の反応・動物の行動			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	14	環境・進化・分類			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
15							
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	授業は上記の14単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	数的処理講義基礎(判断推理)						
科目名(英)							
単位数	7単位	時間数	60時間/105時間	担当者	上村 一則、花水 倫尚		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級教養科1年						
授業概要	判断推理について、公務員採用試験で出題されやすい単元を、オリジナルテキストと授業内で配布されるオリジナルレジュメを使用して学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	絶対合格シリーズ【判断推理】、オリジナルレジュメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	数的処理について					
	2	対応関係			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	3	順序関係			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	4	うそつき			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	5	論理			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	6	集合・人数			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	7	試合・勝敗			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	8	位置・方位			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	9	手順			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	10	数量推理			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	11	暗号			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	12	道順・位相			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	13	平面図形			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	14	折り紙			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	15	展開図			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	16	軌跡			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	17	空間図形の分割			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	18	空間図形の投影			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
	19	多面体・切断・回転			確認テストに向けて、よく復習しておくこと。		
評価方法	毎週実施する講義確認テスト及び模擬試験の結果より評価する。(評価対象3月～10月) 「数的処理基礎講義」成績評価の内訳: 数的推理形50%、判断推理50%						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	講義確認テスト	○	○				50%
	模擬試験	○	○				50%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。 授業は上記の19単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	数的処理講義基礎(数的推理)						
科目名(英)							
単位数	7単位	時間数	45時間/105時間	担当者	田辺 英彦、大村 彰		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級教養科1年						
授業概要	公務員1次試験において出題される数的推理について、オリジナルレジュメを用いて、各単元の解法を習得する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○			本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。		
テキスト・教材 参考図書	テキストは使用しない。 オリジナルレジュメを配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ガイダンス・一次方程式			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	2	濃度			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	3	旅人算			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	4	通貨算			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	5	流水算・時計算			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	6	仕事算			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	7	ニュートン算			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	8	年齢			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	9	平均			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	10	売買損益			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	11	連立方程式			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	12	不等式・不定方程式			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	13	比と割合			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	14	約数・倍数			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	15	整数・記数法			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	16	魔法陣・覆面算・虫食い算			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	17	数列・規則			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	18	場合の数(数え上げ・順列)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	19	場合の数(組合せ・余事象)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	20	場合の数(順列と組合せ・仕切り法)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	21	確率(順列と組合せ)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	22	確率(反復試行・条件付確率)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	23	三角形と多角形(平行線と多角形)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	24	三角形と多角形(相似な図形)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	25	三角形と多角形(三平方の定理)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	26	円(円と角度)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	27	円(円と接線)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	28	面積(三角形)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	29	面積(円・その他)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	30	立体(体積・表面積・展開図)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	31	立体(体積比)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	32	立体(切断・回転体)			演習プリントを配布するので、解いて復習しておくこと。		
	評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
月例テスト		○	◎				80%
麻生模試		○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。 授業は上記の32単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	法律系講義基礎(憲法)						
科目名(英)	Legal Basic lecture (Constitution)						
単位数	10単位	時間数	45時間/150時間	担当者	岡田 広一郎		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員1次(学力)試験で必要となる「憲法」についての基本的知識を習得する。「基本的知識」とは、「人権保障」分野においては判例の知識、「統治機構」分野においては、条文の知識のことである。これにより、本試験の基礎及び標準程度の問題を解くことができる理解力を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人権分野について判例がいかなる解釈を行っているかを個別に結論付けることができる。統治分野については各統治機関相互の位置を関係付けることができる。その結果、小テスト・月例テストに合格点を取ることができる。	
	○	○				本試験における基礎及び標準程度の問題について、問題を解き、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・【テキスト】『公務員試験 過去問攻略Vテキスト 3 憲法』(TAC株式会社、TAC株式会社、2019年) ・【問題集】『新スーパー過去問ゼミ5 憲法』(資格試験研究会、株式会社実務教育出版、2017年)※チェック表配布 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	憲法総論(憲法の基本原理、憲法の分類)				【事後】テキストの授業該当範囲(P.2~9)を精読しておくこと	
	2	人権保障①(基本的人権の原理、基本的人権の限界)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.16~43)についてチェック表に従い解いておくこと	
	3	人権保障②(幸福追求権、法の下での平等)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.44~77)についてチェック表に従い解いておくこと	
	4	人権保障③(思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.82~113)についてチェック表に従い解いておくこと	
	5	人権保障④(表現の自由)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.114~147)についてチェック表に従い解いておくこと	
	6	人権保障⑤(職業選択の自由)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.150~169)についてチェック表に従い解いておくこと	
	7	人権保障⑥(財産権)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.170~185)についてチェック表に従い解いておくこと	
	8	人権保障⑦(社会権)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.222~241)についてチェック表に従い解いておくこと	
	9	人権保障⑧(社会権、受益権、人身の自由)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.222~241、186~205)についてチェック表に従い解いておくこと	
	10	統治機構①(統治総論、国会の地位・組織・活動)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.246~290)についてチェック表に従い解いておくこと	
	11	統治機構②(国会と議院の権能)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.246~290)についてチェック表に従い解いておくこと	
	12	統治機構③(内閣)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.292~336)についてチェック表に従い解いておくこと	
	13	統治機構④(司法権)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.338~355)についてチェック表に従い解いておくこと	
	14	統治機構⑤(裁判所の構成と権限)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.356~394)についてチェック表に従い解いておくこと	
	15	統治機構(地方自治・憲法保障)				【事後】問題集の授業該当範囲(P.416~443)についてチェック表に従い解いておくこと	
評価方法	(1)10月~翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。授業は上記の15単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	法律系講義基礎(民法)						
科目名(英)	Legal Basic lecture (civil law)						
単位数	10単位	時間数	60時間/150時間	担当者	三角 徳之		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員試験で必要となる民法についての基本的知識を習得し、条文・判例の正確な理解を行う。これにより、本試験の基礎及び標準程度の問題に対応する解答力を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	目標		
	○	○			民法の基本的事項を習得する。条文及び判例の理解を目指す。		
	○	○			本試験における基礎及び標準的問題について、正解に達することができる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 『公務員試験 過去問攻略Vテキスト 民法(上)』(TAC株式会社 2019年) 『公務員試験 過去問攻略Vテキスト 民法(下)』(TAC株式会社 2019年) 『新スーパー過去問ゼミ5 民法I』(実務教育出版 2019年) 『新スーパー過去問ゼミ5 民法II』(実務教育出版 2019年) 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	総則①:民法の全体構造、権利の主体I(自然人)			授業該当範囲のテキストを精読しておくこと		
	2	総則②:権利の主体II(法人)、意思表示I(意思表示総説、心裡留保)			授業該当範囲のテキストを精読しておくこと		
	3	総則③:意思表示II(通謀虚偽表示、錯誤)			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	4	総則④:意思表示III(詐欺・強迫)、無効・取消			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	5	総則⑤:条件・期限、代理I(代理総説、代理の要件)			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	6	総則⑥:代理II(無権代理、表見代理)			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	7	総則⑦:時効I(時効総説、取得時効、消滅時効)			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	8	総則⑧:時効II(援用権者、完成猶予・更新)			授業内容に係る月例テストを行うので、復習しておくこと		
	9	物権①:物権法定主義、物権的請求権、所有権、共有			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	10	物権②:占有権、用益物権、物権変動I(物権変動総説)			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	11	物権③:物権変動II(不動産物権変動、動産物権変動)			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	12	物権④:即時取得、担保物権I(担保物権総論、質権、留置権)			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	13	物権⑤:担保物権II(抵当権、法定地上権、根抵当権)			授業内容に係る月例テストを行うので、復習しておくこと		
	14	債権①:債務不履行			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	15	債権②:責任財産の保全			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	16	債権③:債権の消滅			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	17	債権④:多数当事者間の債権債務関係			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	18	債権⑤:契約総論(契約の成立、同時履行の抗弁権、危険負担、解除)			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	19	債権⑥:契約各論I(売買契約、賃貸借契約)			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	20	債権⑦:契約各論II(その他の典型契約)、事務管理			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	21	債権⑧:不当利得、不法行為			授業内容に係る月例テストを行うので、復習しておくこと		
	22	親族・相続①:婚姻			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
	23	親族・相続②:親子			授業該当範囲の問題を解いておくこと		
24	親族・相続③:相続			授業内容に係る月例テストを行うので、復習しておくこと			
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意							
	月例テスト及び麻生模試は、通常の授業とは別の授業コマ内で行う。						
	なお授業で扱うのは上記24単元であるが、各単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	法律系講義基礎(行政法)						
科目名(英)	Legal Basic lecture (Administrative Law)						
単位数	10単位	時間数	45時間/150時間	担当者	高取 仙貴		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員試験で必要となる行政法についての基本的知識を習得し、条文・判例の正確な理解を目指す。また、毎回小テストを行うことで、基本事項の理解の徹底を図る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				総論及び作用法については理論を、救済法については判例を、組織についてはシステムの理解を目指す。	
	○	○				本試験における標準的問題について、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・【テキスト】『公務員試験 過去問攻略Vテキスト 4 行政法』(TAC株式会社、TAC株式会社、2019年) ・【問題集】『新スーパー過去問ゼミ5 行政法』(資格試験研究会、株式会社実務教育出版、2017年)※チェック表配布 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	総論(行政法の基本原理)				授業該当範囲のテキストを精読しておくこと	
	2	行政組織法(行政組織の基礎概念、国家の行政組織、地方の行政組織)				授業該当範囲のテキストを精読しておくこと	
	3	行政作用法①(行政行為の意義・諸効力、内容による分類)				授業内容に係る月例テストを行うので、復習をしておくこと	
	4	行政作用法②(裁量の有無による分類、瑕疵の有無による分類)				授業該当範囲の問題を解いておくこと	
	5	行政作用法③(附款、行政行為の取消しと撤回)				授業該当範囲の問題を解いておくこと	
	6	行政作用法④(行政手続法)				授業内容に係る月例テストを行うので、復習をしておくこと	
	7	行政作用法⑤(行政法上の強制手段)				授業該当範囲の問題を解いておくこと	
	8	行政作用法⑥(行政のその他の活動形式)				授業該当範囲の問題を解いておくこと	
	9	行政救済法①(国家補償、国家賠償法1条)				授業内容に係る月例テストを行うので、復習をしておくこと	
	10	行政救済法②(国家賠償法2条、損失補償)				授業該当範囲の問題を解いておくこと	
	11	行政救済法③(行政上の不服申立て)				授業該当範囲の問題を解いておくこと	
	12	行政救済法④(行政事件訴訟法の全体像、取消訴訟の訴訟要件①)				授業内容に係る月例テストを行うので、復習をしておくこと	
	13	行政救済法⑤(取消訴訟の訴訟要件②)				授業該当範囲の問題を解いておくこと	
	14	行政救済法⑥(取消訴訟の審理手続、判決の効力)				授業該当範囲の問題を解いておくこと	
	15	行政救済法⑦(主観訴訟、客観訴訟)				授業内容に係る月例テストを行うので、復習をしておくこと	
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テストは、通常授業とは別の授業コマ内で行う。授業内容は上記15の単元を扱うが、1つの単元を複数回の授業に跨って説明する。						

科目名	経済系講義基礎						
科目名(英)	Basic Lecture on Economics						
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	堀内 尊功		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科 1年						
授業概要	公務員1次(学力)試験で必要となる「経済原論(ミクロ経済学、マクロ経済学)」についての基本的知識を習得する。「基本的知識」とは、ミクロ経済学、マクロ経済学における基本体系、グラフ、計算方法の知識のことである。これにより、本試験の基礎及び標準程度の問題を解くことができる理解力を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				経済原論の基本、グラフ、計算を習得させる。その結果、週・月例テストで合格点を取れる。	
	○	○				本試験における基礎及び標準程度の問題について、問題を解き、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・【テキスト及び問題集】『オリジナルレジュメ』						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	経済原論総論、ミクロ経済学:総論、生産者理論①(利潤最大化)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	2	ミクロ経済学:生産者理論②(損益分岐点、操業停止点)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	3	ミクロ経済学:消費者理論①(効用最大化)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	4	ミクロ経済学:消費者理論②(効用最大化の応用)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	5	ミクロ経済学:消費者理論③(価格弾力性)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	6	ミクロ経済学:市場の理論(市場の調整過程、余剰分析)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	7	ミクロ経済学:不完全競争①(独占)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	8	ミクロ経済学:不完全競争②(複占)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	9	マクロ経済学:総論、国民所得の概念2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	10	マクロ経済学:財市場①(均衡国民所得)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	11	マクロ経済学:財市場②(乗数理論)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	12	マクロ経済学:貨幣市場①(IS-LM分析(基礎))2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	13	マクロ経済学:貨幣市場②(IS-LM分析(応用))、貨幣乗数3			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	14	ミクロ経済学:消費者理論④(期待効用)、市場の理論②(エッジ)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	15	ミクロ経済学:不完全競争③(ゲーム)、市場の失敗(外部性)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	16	ミクロ経済学:国際ミクロ経済学2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	17	マクロ経済学:労働市場分析(AD-AS分析)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	18	マクロ経済学:消費・投資理論2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	19	マクロ経済学:経済成長理論2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	20	マクロ経済学:国際マクロ経済学2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	21	ミクロ経済学:生産者理論③(生産関数)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
	22	ミクロ経済学:消費者理論④(代替効果・所得効果)2			テキスト章末の問題演習を解いておく。		
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。 単元は全22単元を取り扱う。1単元の内容を複数時間(2～3時間)で実施することもある。単元末の数字。						

科目名	行政系講義基礎(政治学)						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	30時間/45時間	担当者	村田 祐貴子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員1次試験専門試験において出題される政治学分野の知識を授業内で配布されるオリジナルレジュメを用いて習得する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。	
	○	○				政治学について、大学学部レベルの水準を理解し、本試験に対応することができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ(担当講師作成のオリジナルの授業レジュメ)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	政治学の基礎事項 政治権力			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	2	政治権力2			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	3	リーダーシップとエリート			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	4	国家観			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	5	国家観2			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	6	デモクラシーの歴史			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	7	政治の制度 権力分立制			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	8	権力分立制2			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	9	権力分立制3			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	10	政治の動態 政党			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	11	選挙			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	12	選挙2			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	13	日本の政党			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	14	日本の政党2			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	15	圧力団体			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	16	政治の意識と行動			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	17	政治の意識と行動2			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	18	政治の意識と行動3			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	19	イデオロギー			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	20	イデオロギー2			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	21	イデオロギー3			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	22	マスメディアと世論			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	23	マスメディアと世論2			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	24	マスメディアと世論3			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	25	政治文化論			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	26	政治過程論			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	27	政策決定論			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	28	政治体制と政治変動			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	29	現代の民主主義理論と独裁			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	30	政治学の現在 行動科学への批判			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。						

科目名	行政系講義基礎(行政学)						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	15時間/45時間	担当者	村田 祐貴子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	公務員1次試験専門試験において出題される行政学分野の知識を授業内で配布されるオリジナルレジュメを用いて習得する。 また、過去の公務員採用試験の復元問題を解くことで本試験の傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題について、正解に達することができる。	
	○	○				行政学について、大学学部レベルの水準を理解し、本試験に対応することができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ(担当講師によるオリジナルの授業レジュメ)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	行政学の展開 行政の概念と福祉国家			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	2	行政学の起源			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	3	アメリカ行政学の発展			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	4	アメリカ行政学各論			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	5	現代日本の行政制度 行政機関の組織1			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	6	戦後日本の行政組織			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	7	公務員制度			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	8	行政組織の運営 予算制度			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	9	行政管理と評価			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	10	行政改革			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	11	行政改革の手法			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	12	官僚制			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	13	行政の活動と統制 政策形成の理論			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
	14	情報公開制度			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。		
15	地方の行政			専門演習の範囲を事前に指定するので、その該当範囲を復習しておく。			
評価方法	(1)10月～翌年2月の間、毎月1回月例テストを実施する。(2)翌年1・2月に各1回ずつ「麻生模試」を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	月例テスト	○	◎				80%
	麻生模試	○	◎				20%
履修上の注意	月例テスト及び麻生模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。						

科目名	人物試験対策講義						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	堀内尊功、上村一則、花水倫尚、三角徳之、田辺英彦、岡田広一郎		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	個別面接、集団面接、及び集団討論の要領を理解する。論文の形式・内容を理解し、本試験で評価を得る答案を書けるよになる。面接カードの典型的質問事項について、回答の要領を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					公務員面接試験の各種類の要領を理解する。	
		○				公務員論文試験に必要な論文作成能力を身に付ける。	
		○				公務員面接試験に必要な面接カード、エントリーシート作成能力を身に付ける。	
				○		集団面接及び集団討論練習を通じて、他者へ関わり方を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 『面接担当者の質問の意図 2022年度版』(才木弓加著、マイナビ、2020年) 回によってはプリントを配布することがある。 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	個別面接の要領の説明					
	2	集団面接の要領の説明					
	3	集団面接練習					
	4	集団討論の要領の説明					
	5	集団討論練習①					
	6	集団討論練習②					
	7	論文の書き方説明・答案作成①				授業内で示した課題について答案作成	
	8	論文の書き方説明・答案作成②				授業内で示した課題について答案作成	
	9	論文の書き方説明・答案作成③				授業内で示した課題について答案作成	
	10	論文の書き方説明・答案作成④				授業内で示した課題について答案作成	
	11	面接カード作成指導①:「力を入れてきたこと」について				「力を入れたこと」についてカード作成	
	12	面接カード作成指導②:「長所・短所」について				「長所・短所」についてカード作成	
	13	面接カード作成指導③:「自己PR」について				「自己PR」についてカード作成	
	14	面接カード作成指導④:「志望動機」について				「志望動機」についてカード作成	
15	面接カード作成指導⑤:「取り組みたい仕事」について				「取り組みたい仕事」についてカード作成		
評価方法	論文課題4回、面接カード課題5回。 その課題提出回数をもって、成績評価を行う。 S:8~9回、A:6~7回、B:4~5回、C:2~3回、D:0~1回。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎				100%
	発表・作品						
履修上の注意							